安全は安心になり得るのか。

石山、五百蔵、三橋、鰐淵、堀龍、坂本

1 ： 安心を犠牲にした

福島の避難指示の解除条件の一つが、追加で受ける線量が「**20mSv/年**」である。

「**20mSv/年**」 ：職業人が受ける追加放射線被ばく量
「**1mSv/年**」 ：一般公衆が受ける追加放射線被ばく量

すべての範囲を一度に除染は困難

生活する場所を重点的に除染
長期的には1mSv/年を達成

１　：安心を犠牲にした

私たち：「『**1mSv/年**』がいいのではないか…？」

赤石澤　傭さん

地元愛

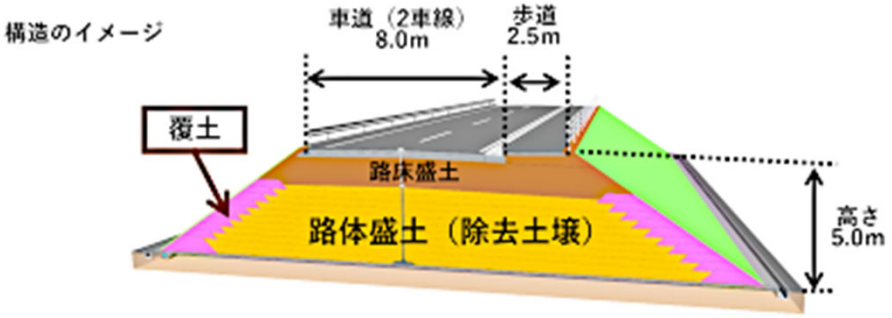
高橋　日出夫さん

安心を作る

２　：安全性を高める

安全性を高めることで人々の安心を取り戻す

→復興再生利用、食品のモニタリング検査等の取り組み



https://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/recycling/project_chukanchozou/

しかし…　いくら安全であると主張しても

それが安心につながるとは限らない

２ ： 安全性を高める

なぜ**安全**であっても
安心につながらないことが
あるのか？

そもそも
「**安全**」と「**安心**」は
どう違うのか？

3 ： 安全とは、安心とは

安全 ー 客観的

安らかで危険のないこと。平穏無事。

『広辞苑』

環境省によると、放射線に関わる職業人が自然放射線に加えて、追加で受ける線量が「20mSv/年」までを許容範囲内としている。

そして、福島の避難指示の解除条件が、追加で受ける線量が「20mSv/年」を必ず下回ることである。

また、避難指示解除地域の住人の98%※は追加線量が「1mSv/年」を下回っている。

※SNS社会で科学者にできること、2024.05.28、
https://share.google/bfHZ1tdGDYMb7NZcf

3 ： 安全とは、安心とは

科学的に安全な土地だといわれても、安心できるかどうかは別問題。

「この地域は放射線が別の土地より数倍多いが、安全だ。」と言われ、一体何割の人が安心できるだろうか。

安心は心の中のリスクと利益の天秤によって判断されるのである。

安心 ー 主観的

“心配・不安がなくて、心が安らぐこと。また、安らかなこと。”

『広辞苑』

4 ： 私たちが放射線を学ぶ意義

0.235μSv/h

20mSv/y

放射能で使う数値が普段聞かないことばっかりでわからない！

8000Bq/kg

４　：私たちが放射線を学ぶ意義

私は…

理系科目が大の苦手で
放射線なんて全くわからなかった

浜通り研修も知識がない中で参加となった

事前講義や**現地実習**を経て放射線の仕組みを
理解するきっかけになった

事実

福島は安全か否かは**数字を見て**わかる！

数字はどう学ぶ？

学校教育などで**学ぶ必要**がある

５ ： 「安心する」ために

安全だと言われる数字を覚えてその数値を**下回っていれば安心か？**

↓

放射線に関する数字を踏まえ、その背景にある地域の実態や人々の生活、
放射線がもたらす影響について**想像し、理解しようとする過程**
が、安全を安心へつなげていくと考える。

↓

放射線に関する**発達段階に応じた教育**が、科学的理解に加え、道徳的・社会的理解を支える。

５ ： 生涯教育

発達段階に応じた放射線に関する生涯教育

小学校	中学校	高等学校	大人
入口	積み上げ	社会化	自分にできること
いかに「自分事」としてとして考えていくことができるかの入り口を作る	知識を１つずつ段階的に積み上げていく	これまでの学びを社会的な視点へとつなげていく	小さなことでも自分にできることはないかを考え行動してみる

6 ： 具体的な企画案

小学生

〇低学年：震災の出来事を知る。
例）絵本の読み聞かせ

〇中学年：少数の量感を理解する。
例）身の回りの生活から見つける授業の展開

〇高学年：生命の尊さを学ぶ
例）道徳教育での授業の展開

何があったのかを知る

中学生

〇大学教員からの講話

〇放射線を楽しく学ぶ
例）宝探しで線量を測る。

〇放射線のみならず防災教育
例）防災バックの作成、避難マップ

内容を理解していく

６ ： 具体的な企画案

高校生

〇大学生との交流

〇浜通り研修高校版

〇商品開発系
例）食べ物・物

〇探求の時間でのプロジェクト
例）マイプロ

交流と実践

大人

〇地元の人との交流

〇身近なことから情報をキャッチする
例）テレビやSNS

〇マルシェを行う

〇ちょっとした疑問を大切にしていく

自分の手で情報をキャッチ

知識を蓄積し、
安全を理解できてこそ
安心になりえる。